

今、甦る古代高島

— 2007年は継体天皇即位1500年記念の年です —

今年、高島市にゆかりの深い継体天皇の、即位1500年という節目の年を迎えます。日本書紀によると、武烈天皇が亡くなり、跡継ぎの皇子もなかったことから、大伴金村らが越前で暮らしていた男大迹王を迎え入れて、507年第二十六代天皇となったと伝えられています。高島市には、継体天皇が誕生した地としての伝承とその遺跡が数多く残されています。今号では、それをひも解き、古代の地域力を、今、再び高島市に吹き込もうと思います。

◆男大迹王と継体天皇とは

第二十六代継体天皇は近江の高島で産まれ、河内の樟葉宮で即位した天皇です。

男大迹王の誕生については、『日本書紀』に父である彦主人王が近江国高島郡の「三尾之別業(別邸)」に住んでいたころ、美しき振媛を妃に迎え、そこで産まれた男大迹王が後の継体天皇であると記されています。

今、「三尾之別業」の伝承地として、安曇川町三尾里周辺に「御殿川」・「上御殿」・「下御殿」の地名や「袍衣塚」などが残されています。

一方、考古学的発掘調査からは、JR安曇川駅前の南市東遺跡から北西に位置する安曇川町公民館周辺の下五反田遺跡にかけて五世紀代の集落跡が確認され、最有力視されています。

◆鉄と塩

では、男大迹王の父彦主人王、母振媛がなぜ高島の地で新しい生活を始めたのでしょうか。ひとつの鍵は、近江の湖北から湖西に産する鉄の原材料としての「鉄鉱石」の存在であると考えられます。古代から近代にあつては「鉄」を手中に治めることは最重要課題でありました。その「鉄」の原材料である「鉄鉱石」をこの地に求めたのでしよう。あわせて、若狭・越前にて特産の「塩」も入手したことでしょう。まさに男大迹王は「鉄王」・「塩王」といえるのかもれません。

マキノ高原では古代製鉄遺跡が先年発掘調査され、その重要性が高められ、今後に期待されることともに、古墳群もあり広域遺跡群のありように興味を持たれます。

に、新時代をみずから開拓した大王ともいえます。

◆二十一世紀の継体天皇像

市では、日本古代史にあつて、北から立ち新しい王権を打ち建て国際社会へと挑戦し続けていた継体天皇のフロンティア精神を学び、関連地域の福井県・坂井市・枚方市とも新しい関係を持ちつつ継体天皇の事蹟を顕彰し二十一世紀のまちづくりの柱のひとつとして今後の事業展開をはかりたいと考えています。まずその手はじめとして、日本古代史の最新鋭の学究である龍谷大学の水谷千秋氏による早春の高島古代史連続講座を開講します。この機会に市民の皆さんにも多くご聴講いただき、高島市が古代史においていかに重要な地域であったかを再認識していただきたいと思います。

◆継体天皇即位

『日本書紀』によると、皇子のいない第二十五代武烈天皇が亡くなると皇位継承者が絶えそうになったので、大連の大伴金村らが応神天皇五世孫で越前にいた男大迹王を迎えに行きます。507年男大迹王は樟葉宮(大阪府枚方市)で即位しました。

◆男大迹王の后妃

后妃については『日本書紀』に九人、「古事記」では七人とあり、越前・尾張・近江・河内・大和などの大王家や地方豪族と関係結び、ここに一大継体連合政権を樹立し新しい王権を確立したものと思われる。また

●日本書紀(訓み下)

●日本書紀 卷第十七 (男大迹天皇) 男大迹天皇(彦主人王)は、菅田天皇(応神)の五世の孫、彦主人王の子なり。母を振媛と曰す。振媛は、活目天皇(垂仁)の七世の孫なり。天皇の父、振媛が顔容姝妙しく、甚だ嫩色有るといふことを聞きて、近江国の高嶋郡の三尾の別業より、使を遣して、三国の坂中井(中、此れをば那と云ふ)に聘へて、納れて妃とす。遂に天皇を産む。天皇幼年くして、父の王薨せしめ。振媛適ち歎きて曰はく、...

●日本書紀(訓み下)

●日本書紀 卷第十七 (男大迹天皇) 男大迹天皇(彦主人王)は、菅田天皇(応神)の五世の孫、彦主人王の子なり。母を振媛と曰す。振媛は、活目天皇(垂仁)の七世の孫なり。天皇の父、振媛が顔容姝妙しく、甚だ嫩色有るといふことを聞きて、近江国の高嶋郡の三尾の別業より、使を遣して、三国の坂中井(中、此れをば那と云ふ)に聘へて、納れて妃とす。遂に天皇を産む。天皇幼年くして、父の王薨せしめ。振媛適ち歎きて曰はく、...



彦主人王御陵

男大迹王の父彦主人王は、皇子が幼年の時に亡くなったと伝えられています。安曇川町田中神社の北の丘陵には彦主人王御陵と呼び親しまれている見事な古墳があり、宮内庁の管理となっています。

また、御陵の東側には「三尾神社旧址」があり同地に振媛が男大迹王を出産される時にもたれたとされる「もたれ石」の伝承があります。



三重生神社

「もたれ石」より北に鎮座する三重生神社の歴史は古く、ご祭神は男大迹王の父である彦主人王と母の振媛命です。毎年4月29日(旧4月18日)の大祭は「うしの祭」と呼ばれ彦主人王と振媛にちなんだ牧歌的な祭が連綿と続けられています。



水尾神社

水尾神社は高島市拝戸に鎮座する大きな神社です。もともとは河南社と河北社の二座あったのですが、今は河南社南本殿境内に遷座されています。ご祭神は振媛命と磐衝別命で古代三尾氏族の祖先神をお祭りしています。

■鴨稻荷山古墳の石棺

今から100年ほど前の1902年に、高島市鴨で県道小浜・朽木・高島線の改修工事が行われていました。その時、稻荷塚と呼ばれていた古墳から大きな石棺が現れ、中から金銅冠・飾履・金製耳飾・環頭大刀など古墳時代を代表する遺物が発見され人々を驚かせました。その後、現京都大学考古学研究室が調査に訪れ広く知れ渡るようになりました。今、同地には大きな家形石棺が覆屋中に保存されています。

